

新発田市 令和4年度 第8回定例記者会見

1 日 時 令和4年11月1日(火)午前11時00分～

2 場 所 ヨリネスしばた 501 会議室

3 内 容

【市長発表項目】

○母子保健の拠点「ハピネス☆(きらきら)しばた」のリニューアルオープン

○介護予防講演会「健康長寿のまちをめざして」

○2022 新発田の美味しいお米コンテスト最終審査会

○第51回 全国うまいもん横丁

【その他】

○令和4年8月県北豪雨災害義援金の報告とお礼

○やさしい日本語落語を楽しもう

○令和4年度新発田市所蔵美術作品展

あいさつ

○今回が私にとっては3期目最後の記者会見ということでもあります。「もう一度皆さん方と相まみえる機会になればいいな」とがんばっているところであります。

○おかげさまで3期12年、市長をさせていただきました。思い起こしてみると、当時選挙の争点にあったのが「駅の橋上化」であります。駅の地下通路を埋めて駅を橋上化するという賛成派と、地下通路にエレベーターを作って無理に橋上化をしないで、浮いた資金を福祉や教育に回すべきだという反対派。後者が私の主張でありましたが、市民の皆さんからは、「駅の橋上化ではなく、福祉や教育にお金を振り向けなさい」という判断があったのではないかと思います。

○私自身は、出馬への大きな要因の一つにあったのは、平成の大合併の総決算をしたいというものでした。新発田の市町村合併が全国でも稀有なケースでありました。通常であれば市町村長が合併のリーダーシップを握って、議会が後からついていくパターンでありますけれども、市町村長の多くは、合併を考えるべきという意見があり、市町村合併の協議会が立ち上がったのですが、一部首長に反対意見があり、第1回目の会合で解散になりました。それならば議会が主導してやろうということで、当時、議長という役職にありましたが、議会が主導して平成の大合併、とりわけ新発田の合併を推し進めたという稀有なケースでありましたので、その責任は自分にあるだろうということで、その総決算をしたい、そんな思いで市長選に臨んだのを記憶しております。

○当時一番大きな問題になったのは、市長になった翌年に国立社会人口問題研究所が896の市町村が2040年までに消滅し、その消滅する市町村の中に新発田市が入っているというショッキングな資料が国の方から提示されたこと。それ以来、何としても人口減少を食い止めようと、その1丁目1番地は、やっぱり子育てだろうということで、ここに重点化していこうということで「子育てするなら新発田」を合言葉に、地方ができ得る全ての子育て政策についてやらせていただきました。

○高校生の医療費無料化もそうでありますし、第3子の保育料・給食費の無料化、最近では2歳児の保育料の無料化など、他市に先駆けてトップランナーを走らせていただきました。おかげさまで、社会減に一定のくさびを打ち込めたのではないかと。結果としては、三条市を抜いて4番目の人口になったということも一つの表れなのかも知れませんが、最近では、健康長寿の方に少しシフトしてみようということで、4つの柱の一つに健康長寿、自然減がなかなか止まりませんので、ここはしっかりやっていこうということで、3期目はその4本柱でやらせていただきました。

○3期目の半分の2年間は「コロナとの戦い」と言っても過言ではないのかなと思っているところであります。しかし、確かにコロナは私達から多くのものを奪いましたけれども、新たに挑戦する場面を与えてくれたというのもまた事実であります。

○その一つにテレワーク、リモートワークというのがあるわけですし、ご案内のように新発田は企業城下町でもありません。基幹産業は農業ということですが、まち作りの三種の神器である「高速道路」「新幹線」「空港」は手中にある

と言っている土地柄でもありますし、負の遺産になるかもしれませんが、閉校した学校も複数持っている。この辺をプロデュースした一つの答えが「キネス天王」ということでもあります。農業に特化したようなシェアオフィスでもありますけれども、たくさんの企業の皆さん方に来ていただいたということでもあります。ぜひこれを伸ばして行って、新発田は企業城下町ではないけれども、新しいスタイルの新しい企業城下町を目指していこうかな、そんなことを今考えているところでもあります。ぜひ皆さん方とまた来期もお会いできることを楽しみに、これから20日に向けて頑張っていきたいというふうに思っております。

最初に、母子保健の拠点「ハピネス きらきら しばた」のリニューアルオープンについて

○「子育てするならやっぱり新発田」を旗印として、新発田版ネウボラである「かかりつけ保健師制度」を導入して、妊娠から就学まで切れ目のない子育て支援を実施してまいりました。この度、一層子育て支援を充実させるため、豊浦保健センターをリニューアルし、母子保健の拠点「ハピネスきらきらしばた」としてオープンをいたします。

○愛称の「ハピネスきらきらしばた」ですが、利用される方に施設を身近に感じていただけるよう、乳幼児健診やイクネスしばたに来場された子育て中の保護者の方にアンケートを実施し、参考にいたしました。

○リニューアルにあたり、3つの新しい取組を実施いたします。一つ目は、ウイズコロナ、アフターコロナ時代に対応した子育て支援を行うため、そしてデジタルネイティブ世代にもしっかりと対応するためにウェブを活用した育児相談、育児教室を開催いたします。

○二つ目は、対面での育児相談の拡充であります。気軽に相談したい方には、月～金曜日の午前中に育児相談室を開設いたします。また、しっかりとした相談が必要な方への相談会をこれまで月1回であったものを月2回に増やして実施いたします。

○三つ目は、この「ハピネスきらきらしばた」を子育て世代の方にかかりつけ保健師が一層身近な存在として感じられ、迅速に、そして適切な相談に繋げるための拠点としていきます。この中でも、「子育てするならやっぱり新発田」の取組を着実に進め、新発田の子どもたち、そして子育て世代の皆様のためにしっか

り取り組んでまいります。

次に、介護予防講演会「健康長寿のまちをめざして」について

○当市は、住み慣れた地域で健康で生き生きと暮らすことができる、健康長寿のまち新発田を掲げ、「人生 100 年時代」できるだけ自分で自分のことができ、寝たきりになる期間を短くするため、健康長寿の延伸を目指してまいります。

○年齢を重ねると筋力が衰え、「フレイル」と呼ばれる虚弱状態になる方が増加しますが、コロナ禍の影響もあり、外出を控え、体を動かす機会や他者との交流が減少することで、フレイル状態になる方が増えてきております。フレイルは、そのままにしておけば悪化しますが、早めに適切な対応をとれば回復できるものであります。運動機能の改善プログラムの実施や、口腔機能の向上、栄養改善などの支援を集中的かつ計画的に行うことで、フレイルによって日常生活で生じていた支障を改善させる事業を、当市では、令和 2 年度から県内他市に先駆けていち早く取り組んでおります。

○サービスの利用者からは、「買い物へ行けるようになった」「階段昇降ができるようになった」など、できなくなっていた動作が取り戻せたことへの感謝の声をいただいております。当市としましても、このサービスの効果を実感しており、令和 4 年度からは、より多くの市民の皆様に参加していただけるよう、事業の拡充を進めているところであります。

○今回、大分県でこのフレイル対策事業を実施し、令和元年の同県男性の健康長寿日本一に尽力され、当市にフレイル予防・改善のノウハウを伝授いただきました佐藤貴史氏を講師に迎え、フレイルの予防や改善により、個人だけでなく社会にもたらす効果について講演いただき、また講演会では、事業に参加された方の感想など、生の声もお届けします。健康長寿延伸の参考になりますので、市民の皆様にはぜひとも参加いただきたいと考えております。

次に、新発田の美味しいお米コンテスト最終審査会の開催について

○平成 27 年に第 1 回が開催され、今年で 8 回目となるコンテストですが、当市の基幹産業である農業、そして新発田の食を支えていただいている生産者の努力をたたえようという趣旨で、開催しているものであります。

○当市の田んぼは、稲刈りを終え、9月25日現在の作況は平年並みであります。仮渡し金は、3年ぶりに上昇いたしました。肥料等の高騰が続き、農業経営は依然厳しい状況であります。今ほど作況指数は、平年並みというふうに言いましたけれども、最近JAの管理委員長のお話を聞きますと、刈り取った実数からいくと96～97ではないか、やや不良に近いのではないかとというような話を聞いております。

○このような中、生産者には、このコンテストをきっかけにおいしい米作りに意欲的に取り組んでいただくことに加え、上位入賞者には特典として、本市独自の開拓によって手にした海外市場での販売や、災害協定を結ぶ神奈川県海老名市の学校給食への提供などの機会を用意しております。また、新たにスタートをいたしました「オーガニック新発田プロジェクト」においても、取組面積の拡大を図り、お米コンテストの参加者を増やすなど、相乗効果を図りながら、農家所得の向上を目指して取組を進めているところであります。

○最終審査は、11月10日木曜日に月岡温泉白玉の湯泉慶を会場に行います。86件のエントリーの中から既に実施した測定機器による一次審査、二次審査を通過した上位10点について、審査員の試食を行い、金賞・銀賞・銅賞米を決定いたします。報道関係の皆さんにも試食をしていただくことにしておりますので、ぜひ新発田の米のおいしさを実際に味わっていただきたいと思っております。

○なお、「オーガニック新発田プロジェクト」で栽培した新米も収穫され、市場へ出始めております。今日は皆さんにも、この大地の恵みをお裾分けしたいと思います。私も試食いたしました。安全性はもちろんのこと、味も十分に太鼓判を押せるものと自負しております。こちらのお米もぜひ味わっていただきたいと思っております。

最後に、第51回全国うまいもん横丁の開催について

○全国各地の特産品が一堂に集まる「全国うまいもん横丁」が3年ぶりに開催をされます。今年度の出店数は81店舗。香川県の「かねすえわらび餅」、千葉県の「房総ひじき」、「千葉落花生」、愛媛県の「宇和島じゃこ天」など、おなじみの県外出店者は、今年も多数参加をいたします。今年には新たにロケ弁で有名な「とんかつ まい泉」などの新規出店や「舟和の芋ようかん」、「広島八天堂のくりむパン」など、各地の特産品をまとめて販売する「うまいもんセレクトショップ」も開店いたします。

○また例年開催し、好評を得ている駅弁・空弁の販売も4日間開催します。最終日には、全国でも有名な新潟駅の駅弁「新発田三新軒のえび千両ちらし」も販売いたします。そして、1店舗当たり1,500円以上のお買い物で豪華景品が当たるお楽しみ抽選会も開催をいたします。市民の皆様には3年ぶりのイベントで、ぜひとも元気になっていただきたいと思います。また、市外からもたくさんのお客様においでいただきますよう、お待ちしております。なお、植木市の同時開催をいたします。美味しい特産品はもちろん、匠の技が光る工芸品が皆様をお待ちしておりますので、ぜひご来場いただきたいと思います。